

---

羽

安樂生

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

羽

### 【ZPDF】

201920

### 【作者名】

安楽生

### 【あらすじ】

最近胸中に羽が生えてきました。

(前書き)

「これは私が通う精神病院で亡くなつた方への追悼の文です。」

最近、背中から羽のようなものが生えてきた。

服を着てしまえばわからないから、放つておいた。

しかしこれもすると、とうとう服で隠せないくらい羽が大きくなつてしまつた。

医者に行くと、入院が必要だといわれ、私は入院することになつた。

正直、初めて入院施設に行つたときはびっくりした。

男も女も、老いも若きも、ここにいる人間全員の背中に羽が生えていたからだ。

大きさも形も色も人それぞれだが、皆が羽を生やしている。

そして私もその仲間に入つた。

病棟の人々は皆、とても優しかった。

外界の悲惨な出来事を憂えて涙したり、荒んでしまつたこの世の中を嘆いては悲しくてまた泣く。

なまじ背中に羽なんかが生えているので、『あなたは天使ですか?』ときいてしまつたことさえある。

そしてここの人には色々な事に対しても臆病だ。

羽のない人間を怖がつたり、ニュースで報道された不幸をまるで自分のことのように受け止めてしまう姿はやはり人間離れしているように思う。

そんな時、病棟に新しい患者が入つてきた。

綺麗な人だつた。

容姿もさることながら、その背に負つた羽は今までに見たことがないくらい大きくて立派で、美しかつた。

私はついたま痺で、『あなたは、天使ですか?』ときいてしまった。その人は困ったように微笑むと、鈴を転がすような声で私の問い合わせをやんわりと否定した。

私達はすぐに仲良くなつた。

その人は一人用の病室から一度も出たことがなかつた。

食事も全て病室で取つていた。

だから私が訪ねていつた。

その人はいつも嬉しそうに私を迎えてくれた。

私達はたくさん話をした。

夕方になると窓辺のベッドの上にいるその人の羽に夕日がとても映える。

そんなとき、その人の羽はいつそう大きく立派に見えた。

私はこんなに美しいものを見たことがないと心から思つた。

ある朝、私がその人の個室を訪れるとその人はもういなかつた。病棟中を探し回つたが、何処にもその人の姿はなかつた。

看護士達に聞くと、どうやらその人は「飛んでいつてしまつた」らしい。

私は急いで屋上に出ると、消灯時間になるまで空を見上げその人を探したが、とうとう見つからなかつた。

その人がいなくなつて、数日が経つた。

私は寂しくて、食事も喉を通らない。

その人が居なくなつて綺麗に整頓された個室に行つてみた。白い個室の窓際、その人がいつもいた場所に白い封筒と白い羽がそつと置いてあつた。

封筒を開けると白い便箋に

『何も言わないで行ってしまってごめんなさい。あなたの綺麗な羽が大好きでした』

と書いてあった。

読み終えると手紙と羽は音も立てず消えてしまった。  
何故だか涙が出た。

外は雪が降っていて、私にはそれが羽のように見えて

私にも冬が来たんだとわかった。

（後書き）

追悼、といつても知り合いじゃなかつたし、顔も名前も知らない人でした。

でも同じ所に所属する人だつたので何故だか涙が出ました。

（知り合いの方は泣きじゃくつたり暴れたりと色々大変でした…）

人が死ぬのは寂しいです。他人の私まで寂しいです。

生きているのが辛い人に、それでも生きていて欲しいなんていうのは

とても自分勝手なお願いごとかもしれないです。

でもやつぱりできれば死なないでいて欲しいのです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0192c/>

---

羽

2011年1月9日04時42分発行